

論 文 審 査 の 要 旨

筆頭著者（学位申請者）氏名

高木（韓） ウェイ

主論文の題目
および
掲載・審査委員

題 目 Inpatient Educational Program Delays the Need for Dialysis in Patients with Chronic Kidney Disease Stage G5（慢性腎臓病教育入院はCKDステージG5の透析導入までの期間を延長させる。）

掲載誌 Clinical and Experimental Nephrology 2021;25: 166-172

主査 池森 敦子

副査 信岡 祐彦

副査 木田 圭亮

[論文の要旨・価値] 慢性腎臓病(CKD)は、成人人口のおよそ13%を占める国民病であるが、CKD患者の疾患への理解は十分でないため、生活習慣の改善を含む患者教育が必要である。このため、当院の腎臓高血圧内科は、1週間程度の多職種によるCKD教育入院プログラム(Inpatient IEP)を作成し、患者教育を行っており、その効果は、中等症までの保存期CKDにおいて確認されている(Clin Exp Nephrol, 2019)。本研究では、さらに、IEPによる透析導入の遅延効果(CKD G stage 5に進行後、透析導入に至るまでの期間)や末期腎不全になった際のADL/QOLに影響する導入時の透析アクセス保持率、透析導入時の入院日数、緊急透析の有無を後方視的に検討した。対象症例は、2011年1月から2018年9月までに透析導入となった成人CKD患者301人である(6か月未満の経過観察期間やIEP実施時期が慢性腎臓病G stage 5の場合は除外)。その内、IEPが実施された症例は41名(13.6%)であり、実施されない症例と比べ、男性が有意に多かった。慢性腎臓病G stage 5に進行した時点でのCKD進行危険因子(年齢、性別、ヘモグロビン値、糖尿病の有無、eGFR)により調整した1:1の傾向スコアマッチングでは、IEP実施(41名)により、約3か月の透析導入遅延効果、導入時の高いアクセス保持率、約5日の入院日数の減少が認められた。また、緊急透析の必要性もIEP実施により抑制される傾向であった。IEPは、患者のCKDへの理解を促し、定期的服薬や積極的な食事・運動療法の実行につながる可能性がある。本論文は、有効な治療薬がない慢性腎臓病に対して、入院による腎臓病に対する患者教育が、末期腎不全への移行を抑制するだけでなく、末期腎不全になった際のADL/QOLの向上につながる可能性が示された重要な知見である。

[審査概要] 審査は主査、副査2名および4名の陪席者のもとで行われた。約20分間のプレゼンテーションの後、40分程度の質疑応答が行われた。プレゼンテーションでは、分かりやすいスライドにより、慢性腎臓病における教育入院プログラムの必要性、研究目的、方法、結果、limitationや今後の展望を含む考察、結論が適切に提示された。質疑応答では、教育入院プログラムの具体的な実施内容、慢性腎臓病の進行抑制に関与した教育入院プログラムの具体的要因、教育入院プログラムの実施に適切な病期など、多岐にわたる質問がされたが、申請者は、概ね的確に回答した。

最 終 試 験 結 果 の 要 旨

[研究能力・専門的学識・外国語(英語)試験等の評価] 申請者は、腎臓病に関する幅広い専門知識と十分な研究能力・意欲、発表能力を有すると判断された。質疑への応答態度は真摯であり、英語論文の一部和訳により評価された英語能力も問題なかった。また、提出された2本の参考論文は、英語論文であり、申請者は、学位授与に値すると判断する。